



## 本PDFの特徴

PDF形式なので、  
パソコンはもちろん、 아이폰・スマートフォン  
フィーチャーフォン・PDAで利用可能です。

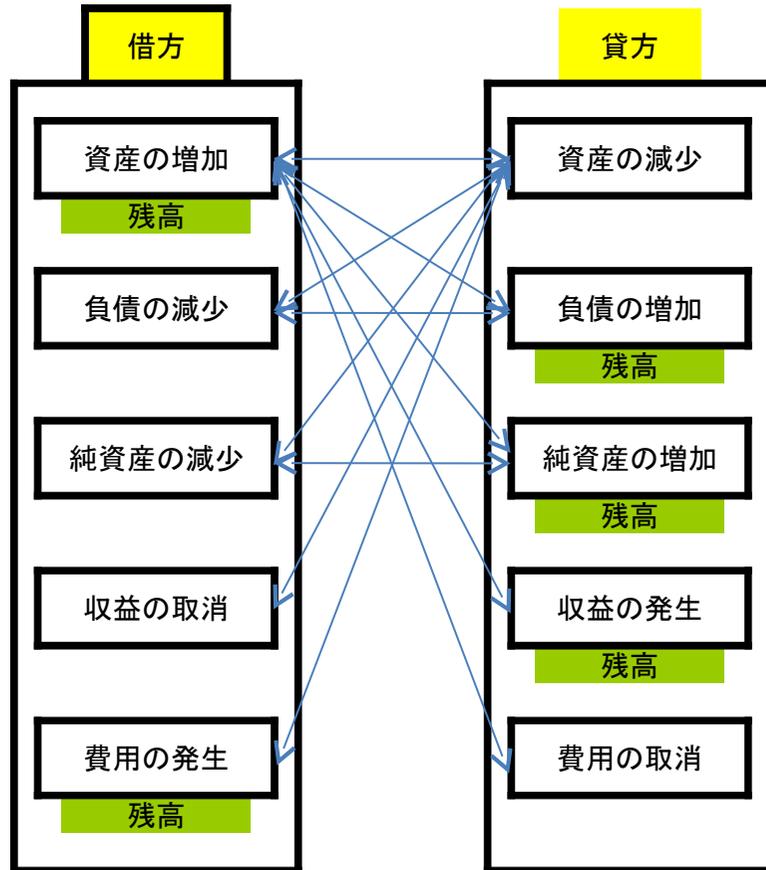
テーマごとのしおりで、  
目的の仕訳問題にジャンプできます。

仕訳問題ページの次に解答ページ。  
仕訳の解答がすぐわかります。

仕訳問題は1,000問あり、  
テーマごとのしおりで、分類されています。

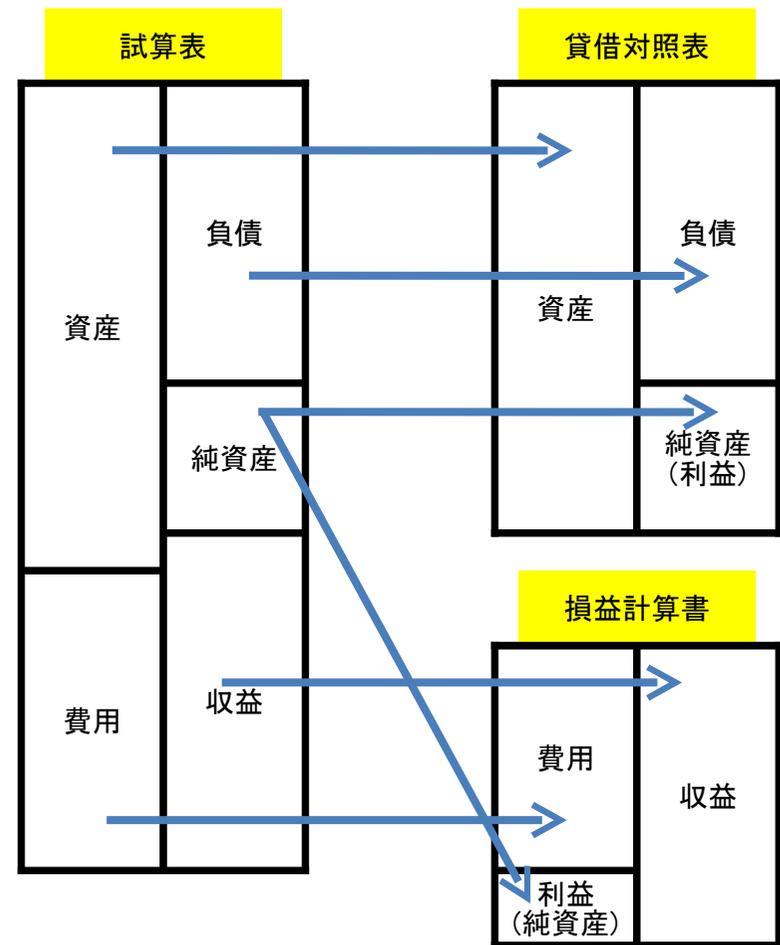
# 取引の五要素、試算表と貸借対照表・損益計算書の位置関係

## 取引の五要素



※矢印は、仕訳で使用される関係性です(目安)。

## 試算表と貸借対照表・損益計算書との位置関係



※枠の大きさは目安です。

## 簿記3級でよく使用される主な勘定科目(目安)

### 貸借対照表

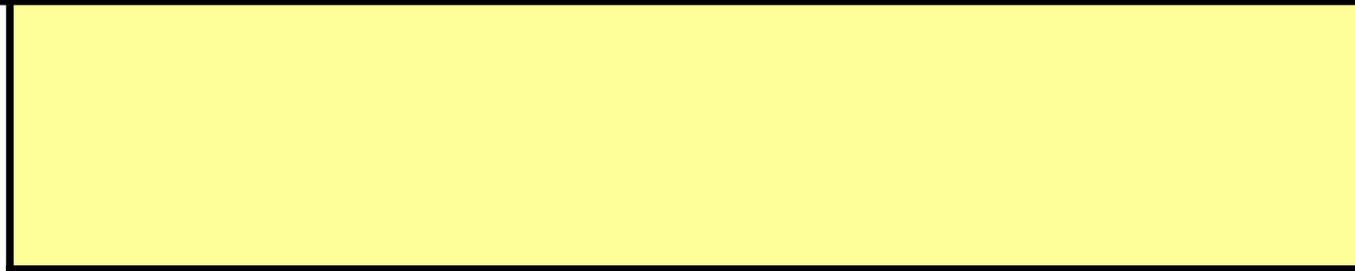
[資産]	[負債]
現金	当座借越
現金過不足	支払手形
小口現金	買掛金
当座預金	短期借入金
普通預金	未払金
受取手形	未払費用
売掛金	前受金
貸倒引当金	預り金
売買目的有価証券	前受収益
繰越商品	仮受金
立替金	長期借入金
前払金	長期未払金
前払費用	[純資産]
未収収益	資本金
貸付金	引出金
未収入金	当期純損益金額
仮払金	
建物	
車両運搬具	
備品	
減価償却累計額	
土地	

### 損益計算書

[費用]	[収益]
仕入	売上高
給料	受取家賃
荷造運賃	受取利息
広告宣伝費	受取配当金
交際費	有価証券売却益
旅費交通費	
通信費	
消耗品費	
修繕費	
水道光熱費	
支払手数料	
地代家賃	
保険料	
租税公課	
減価償却費	
貸倒損失	
貸倒引当金繰入	
支払利息	
割引料	
手形売却損	
貸倒損失	
有価証券売却損	
固定資産売却損	

## 仕訳問題 1

仕入先の八尾商店に対する買掛金 ¥170,000 を現金で支払った。



1 仕入先の八尾商店に対する買掛金 ¥170,000を現金で支払った。

現金(資産)	普段使用している硬貨・紙幣を表す勘定科目 通貨(現金)以外にも、 他人が振り出した小切手、送金小切手、郵便為替証書 株式配当金領収書、支払期日が到来した公社債の利札 などの「通貨代用証券」も現金として処理します。
--------	--

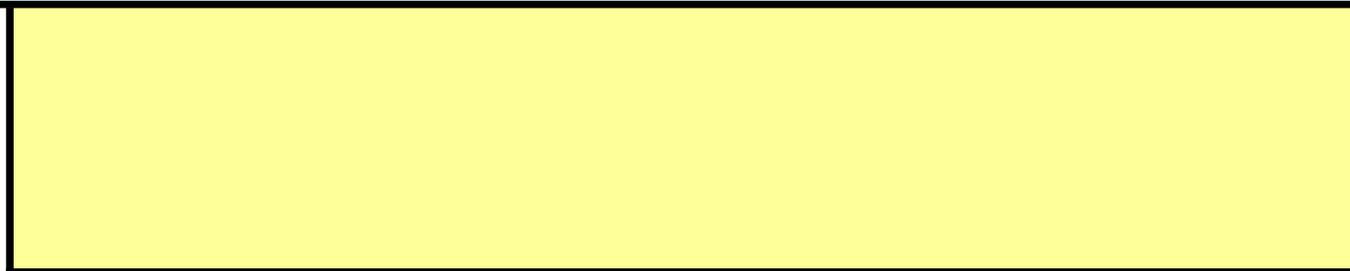
仕入債務の支払を現金で行いましたので、現金(資産)を貸方(右側)に記入します。  
買掛金は、負債の減少として、借方(左側)に記入します。

仕訳

借 方			貸 方		
買掛金	負債の減少	170,000	現金	資産の減少	170,000

## 仕訳問題 127

小口現金係から、旅費交通費¥20,000、消耗品費¥69,000および雑費¥23,000の小口現金の使用について報告を受け、ただちに同額の小切手を振り出して補給した。なお、当店は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。



小口現金係から、旅費交通費¥20,000、消耗品費¥69,000および雑費¥23,000の小口現金の使用について報告を受け、ただちに同額の小切手を振り出して補給した。なお、当店は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。

小口現金係に小口現金を前渡しした時は、小口現金勘定(資産)の増加として借方(左側)に記入します

借方		貸方	
小口現金	xxxx	当座預金	xxxx
(資産の増加)		(資産の減少)	

小口現金の支払いの詳細は以下の通りです。

旅費交通費	20,000
消耗品費	69,000
雑費	23,000
合計	112,000

小口現金係より、小口現金支払額計¥112,000の報告をうけたので、小切手で、補給した。使用する科目一覧の中に、「小口現金」がなければ、次の仕訳が正解となります。

仕訳

借方			貸方		
旅費交通費	費用の発生	20,000	当座預金	資産の減少	112,000
消耗品費	費用の発生	69,000			
雑費	費用の発生	23,000			
「小口現金」勘定を使う仕訳と使わない仕訳があります。両方とも正解です。					

仕訳

借方			貸方		
旅費交通費	費用の発生	20,000	小口現金	資産の減少	112,000
消耗品費	費用の発生	69,000			
雑費	費用の発生	23,000			
小口現金	資産の増加	112,000	当座預金	資産の減少	112,000

## 仕訳問題 164

半田商店は、得意先へ商品 ¥80,000 を売上げ、代金は小切手で受取り、ただちに当座預金に預入れた。なお、取引銀行と当座借越契約を結んでおり、現在の当座勘定残高(借方)は ¥80,000 であった。ただし、当座取引は当座勘定のみで処理している。

半田商店は、得意先へ商品 ¥80,000を売上げ、代金は小切手で受取り、ただちに当座預金に預入れた。なお、取引銀行と当座借越契約を結んでおり、現在の当座勘定残高(借方)は ¥80,000であった。ただし、当座取引は当座勘定のみで処理している。

二勘定制	当座預金の残高がプラスの時は当座預金(資産)勘定、マイナスの時は当座借越(負債)勘定の二つの勘定を使用して処理する方法
一勘定制	当座預金の残高が、プラスの時もマイナスの時も、当座勘定という一つの勘定科目を処理する方法。 二勘定制のように二つの勘定科目を使い分ける必要がないため、スムーズに仕訳を起こすことができます。

売上の回収代金を、当座預金に預け入れたので、「当座」勘定を使用して仕訳を起こします。

仕訳

借 方			貸 方		
当座	資産の増加	80,000	売上	収益の発生	80,000

## 仕訳問題 7

従業員の給料¥300,000を小切手を振り出して支払った。

7 従業員の給料¥300,000を小切手を振り出して支払った。

**自己振り出し**の小切手を発行した時は、「当座預金」の減少となり、貸方に記入します。

**他人振り出し**の小切手を受け取った時は、通貨代用証券として、現金で処理することになります。

仕訳

借 方			貸 方		
給料	費用の発生	300,000	当座預金	資産の減少	300,000

### 仕訳問題 3

寝屋商店に、商品 ¥500,000 を売上げ、代金は現金で受取った。

3 寝屋商店に、商品 ¥500,000を売上げ、代金は現金で受取った。

現金(資産)	普段使用している硬貨・紙幣を表す勘定科目 通貨(現金)以外にも、 他人が振り出した小切手、送金小切手、郵便為替証書 株式配当金領収書、支払期日が到来した公社債の利札 などの「通貨代用証券」も現金として処理します。
--------	--

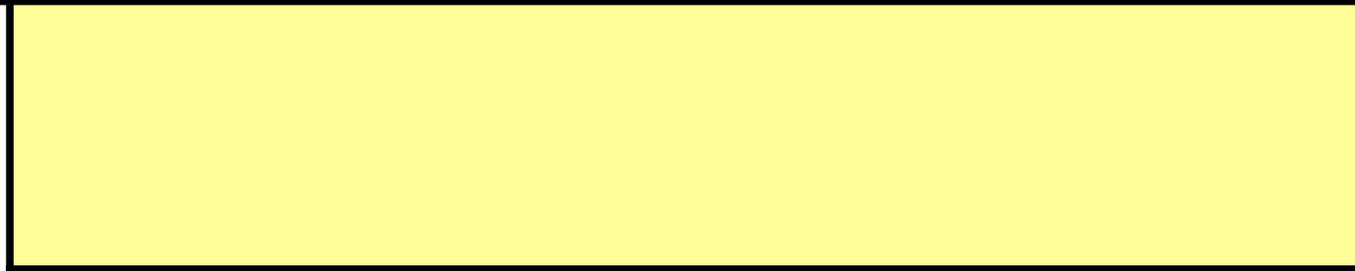
商品を販売しましたので、「売上」勘定(収益)を貸方(右側)に記入します。  
その代金を現金で受け取りましたから、「現金」勘定(資産)を借方(左側)に記入します。

仕訳

借 方		貸 方			
現金	資産の増加	500,000	売上	収益の発生	500,000

## 仕訳問題 976

次の取引を人名勘定を用いて仕訳しなさい。  
矢上商店から商品¥225,000を掛にて仕入、仕入諸掛¥7,000を現金で支払った。



976

次の取引を人名勘定を用いて仕訳しなさい。  
 矢上商店から商品¥225,000を掛にて仕入、仕入諸掛¥7,000を現金で支払った。

売掛金や買掛金の代わりに、商店名などの名称を勘定科目として使用することを「人名勘定」といいます。

仕訳

借 方			貸 方		
仕入	費用の発生	232,000	矢上商店	資産の増加	232,000

## 仕訳問題 36

先月3日に掛にて売上げた商品 ¥200,000について、今月19日に ¥4,000の値引きを行った。なお、掛代金と相殺する。

先月3日に掛にて売上げた商品 ¥200,000について、今月19日に¥4,000の値引きを行った。なお、掛代金と相殺する。

掛で商品売り上げたときの仕訳は、

借方		貸方	
売掛金	xxxxx	売上	xxxxx

となりますが、返品・値引きの場合には、この逆仕訳を起こします。

返品・値引きの場合の仕訳

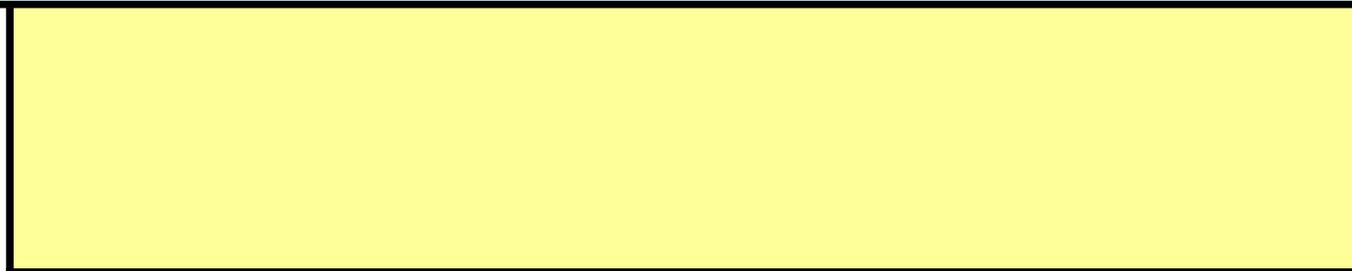
借方		貸方	
売上	xxxxx	売掛金	xxxxx

仕訳

借方			貸方		
売上	収益の取消	4,000	売掛金	資産の減少	4,000

## 仕訳問題 26

市原商店から商品 ¥150,000を仕入れ、代金は掛とした。



26

市原商店から商品 ¥150,000を仕入れ、代金は掛とした。

商品を仕入ましたので、仕入(費用)勘定で、借方(左側)に記入します。  
「代金は掛とした」とありますので、買掛金(負債)勘定で、貸方(右側)に記入します。

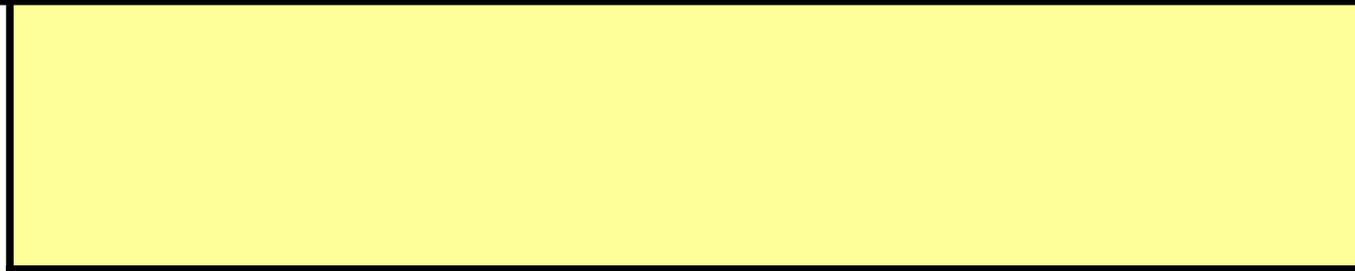
買掛金とは、販売するための商品を購入し、代金を後日払いにしたときに使用する科目です。

仕訳

借 方			貸 方		
仕入	費用の発生	150,000	買掛金	負債の増加	150,000

## 仕訳問題 8

広告費¥30,000を現金で支払った。



8 広告費¥30,000を現金で支払った。

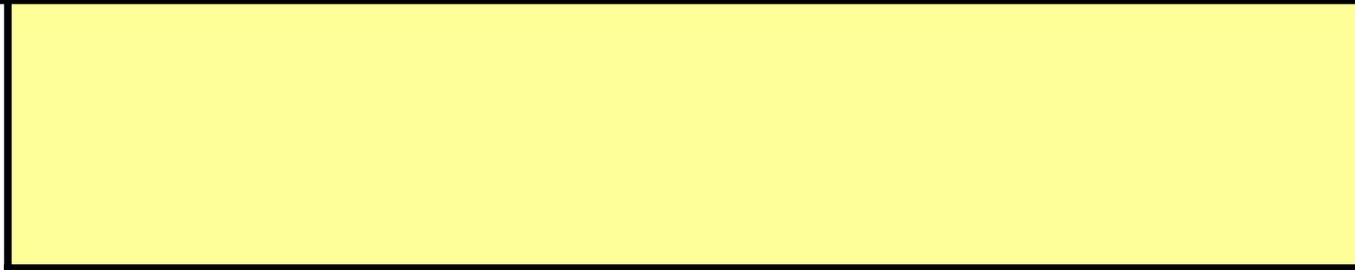
現金(資産)	普段使用している硬貨・紙幣を表す勘定科目 通貨(現金)以外にも、 他人が振り出した小切手、送金小切手、郵便為替証書 株式配当金領収書、支払期日が到来した公社債の利札 などの「通貨代用証券」も現金として処理します。
--------	--

仕訳

借 方			貸 方		
広告費(広告宣伝費)	費用の発生	30,000	現金	資産の減少	30,000

## 仕訳問題 33

先日仕入れた商品について、品質不良であったため¥4,000の値引きを受けた。なお、掛代金と相殺することにした。



33

先日仕入れた商品について、品質不良であったため¥4,000の値引きを受けた。なお、掛代金と相殺することにした。

掛で商品を仕入れたときの仕訳は、

借方		貸方	
仕入	xxxxx	買掛金	xxxxx

となりますが、返品・値引きの場合には、この逆仕訳を起こします。

返品・値引きの場合の仕訳

借方		貸方	
買掛金	xxxxx	仕入	xxxxx

仕訳

借方			貸方		
買掛金	負債の減少	4,000	仕入	費用の取消	4,000

## 仕訳問題 385

根岸商店に商品 ¥60,000を掛販売した際に、科目を貸借反対に仕訳して転記していた。

根岸商店に商品 ¥60,000を掛販売した際に、科目を貸借反対に仕訳して転記していた。

本来の仕訳

借方		貸方	
売掛金	60,000	売上	60,000

間違えた仕訳

借方		貸方	
売上	60,000	売掛金	60,000

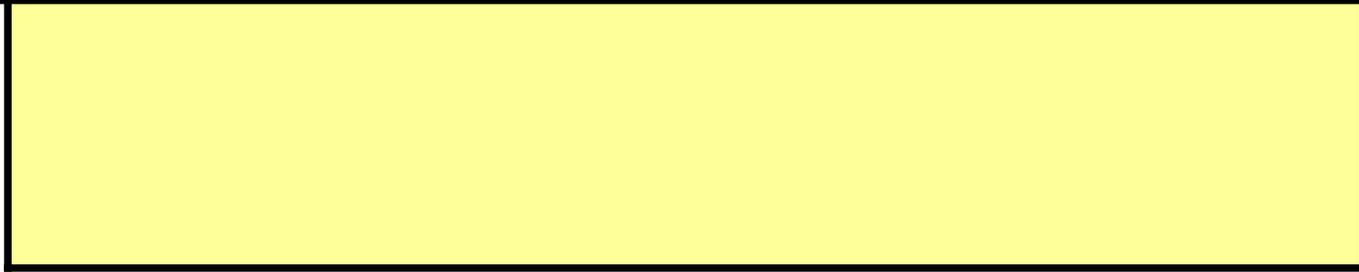
貸借を逆に仕訳しましたので、本来の仕訳を行い、**金額を倍にします。**

仕訳

借方			貸方		
売掛金	資産の増加	120,000	売上	収益の発生	120,000

仕訳問題 54

売掛金 ¥150,000を得意先振出しの約束手形にて回収した。



54 売掛金 ¥ 150,000を得意先振出しの約束手形にて回収した。

得意先振出しの約束手形を受け取った時は、受取手形(資産)勘定で処理し、借方(左側)に記入します。  
貸方(右側)には、売掛金(資産の減少)を記入します。

仕訳

借 方			貸 方		
受取手形	資産の増加	150,000	売掛金	資産の減少	150,000

## 仕訳問題 243

橋本商店より商品 ¥300,000を仕入れ、代金のうち ¥200,000は、増田商店振出し、当店受取りの約束手形を裏書譲渡し、残額はかねてより売掛金のある羽衣商店宛の為替手形を同店の引受けを得て振出した。

243

橋本商店より商品 ¥ 300,000を仕入れ、代金のうち ¥ 200,000は、増田商店振出し、当店受取りの約束手形を裏書譲渡し、残額はかねてより売掛金のある羽衣商店宛の為替手形を同店の引受けを得て振出した。

裏書譲渡 (裏書手形)	受けとっていた約束手形の裏面に譲渡先を記入して、買掛金等の支払のために譲渡すること。受取手形勘定を使用します。
----------------	---

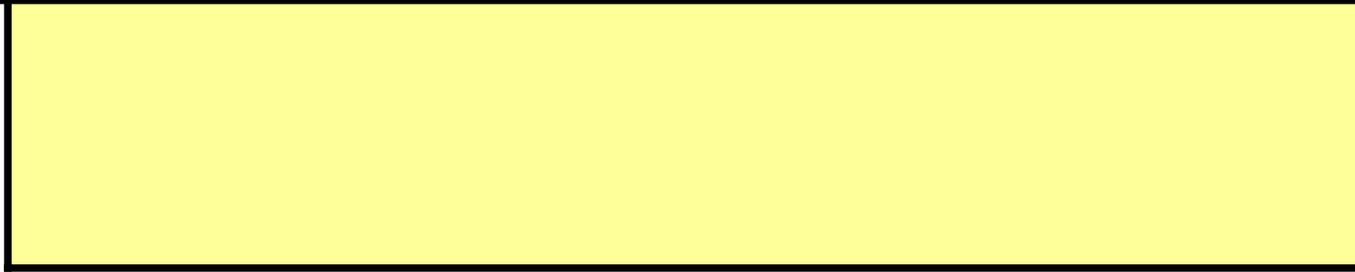
為替手形の 振出時の 仕訳	為替手形を振り出したとき(振出人の仕訳) (借)仕入 or 買掛金 xxx / (貸)売掛金 or 売上 xxx
	為替手形を引き受けたとき(名宛人・支払人・引受人の仕訳) (借)買掛金 or 仕入 xxx / (貸)支払手形 xxx
	為替手形を受け取ったとき(指図人・受取人の仕訳) (借)受取手形 xxx / (貸)売上 or 売掛金 xxx

仕訳

借 方		貸 方		
仕入	費用の発生	300,000	受取手形 資産の減少	200,000
			売掛金 資産の減少	100,000

## 仕訳問題 283

小金商店に対する買掛金 ¥200,000の支払いのため、自己宛為替手形を振出した。



小金商店に対する買掛金 ¥ 200,000 の支払いのため、自己宛為替手形を振出した。

自己宛為替手形

振出人が、自分を引受人とする為替手形を振出し、相手に手形代金を支払うという為替手形。

仕訳は約束手形の振出しと同じです。

自己受為替手形

振出人が、自分を受取人として為替手形を振り出し、債権者に引受させる為替手形

仕訳は約束手形の受取りと同じです。

仕訳

借 方		貸 方	
買掛金	負債の減少	200,000	支払手形
			負債の増加
			200,000

## 仕訳問題 284

高石商店に対する売掛金 ¥180,000を回収するため、自己受為替手形を振出し宮崎商店の引受けを得た。

高石商店に対する売掛金 ¥180,000を回収するため、自己受為替手形を振出し宮崎商店の引受けを得た。

自己宛為替手形

振出人が、自分を引受人とする為替手形を振出し、相手に手形代金を支払うという為替手形  
仕訳は約束手形の振出しと同じです。

自己受為替手形

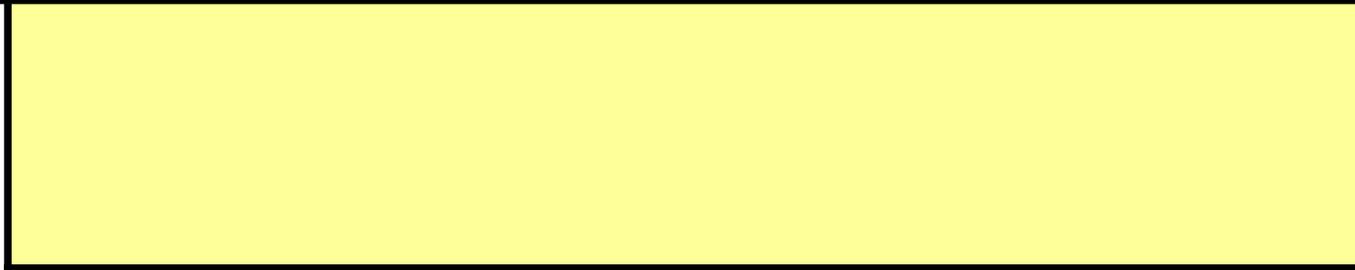
振出人が、自分を受取人として為替手形を振り出し、債権者に引受させる為替手形  
仕訳は約束手形の受取りと同じです。

仕訳

借 方			貸 方		
受取手形	資産の増加	180,000	売掛金	資産の減少	180,000

## 仕訳問題 123

仕入先常滑商店より商品 ¥250,000を仕入れ、さきに支払った内金 ¥80,000を差引き ¥100,000は小切手を振出して支払い、残額は掛とした。



123

仕入先常滑商店より商品 ¥ 250,000を仕入れ、さきに支払った内金 ¥ 80,000を差引き ¥ 100,000は小切手を振出して支払い、残額は掛とした。

前払金(資産)	商品を購入するときの手付金(内金)を支払った時に使用する科目
前受金(負債)	商品の手付金(頭金・内金)を受けとった時に使用する科目

仕入額                    250,000 の代金として

前払金                    80,000

小切手支払              100,000 ← 当座預金で処理します。

残額は掛                70,000 ← 買掛金で処理します。

仕訳

借 方		貸 方			
仕入	費用の発生	250,000	前払金	資産の減少	80,000
			当座預金	資産の減少	100,000
			買掛金	負債の増加	70,000

## 仕訳問題 91

市川商店は、商品 ¥58,000 を販売し、代金は小売商連合会加盟の東庄商店が発行した商品券 ¥70,000 を受取り、おつりを現金で支払った。

91

市川商店は、商品 ¥58,000を販売し、代金は小売商連合会加盟の東庄商店が発行した商品券 ¥70,000を受取り、おつりを現金で支払った。

商品券(負債)	当店が発行した商品券。 後日、商品券分の商品を渡すため負債となります。
他店商品券(資産)	他店が発行した商品券。後日、商品券分を他店と精算することができるので、資産となります。

商品売上額	58,000	売上(収益)の発生
他店商品券受取	70,000	他店商品券(資産)の増加
おつり	12,000	現金(資産)の減少

仕訳

借 方		貸 方			
他店商品券	資産の増加	70,000	売上	収益の発生	58,000
			現金	資産の減少	12,000

## 仕訳問題 550

消耗品 ¥35,000を購入し、代金は小切手を振出して支払った。なお、消耗品は購入時に消耗品勘定で処理する。

550

消耗品 ¥ 35,000を購入し、代金は小切手を振出して支払った。なお、消耗品は購入時に消耗品勘定で処理する。

消耗品費 (費用)	1回限りで使い切ったり、1年以内に消耗する事務用品等に対する支払った時の使用する勘定科目です。
--------------	---

決算時における消耗品の決算整理

購入時に消耗品費(費用)で処理し、決算時に、未使用分を
消耗品(資産)に振り替える方法
購入時に消耗品(資産)で処理し、決算時に、使用分を
消耗品費(費用)に振り替える方法

仕訳

借 方			貸 方		
消耗品	資産の増加	35,000	当座預金	資産の減少	35,000

## 仕訳問題 439

得意先南浅商店が倒産し、売掛金 ¥50,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定の残高は ¥38,000 である。

得意先南浅商店が倒産し、売掛金 ¥ 50,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定の残高は ¥ 38,000 である。

売掛先の債権が回収不能となった時、「貸倒引当金」に残高があるときは、「貸倒引当金」を取り崩して処理します。  
「貸倒引当金」から取り崩すことができないときは、「貸倒損失(or貸倒償却)」a/cを使用します。

貸倒引当金残高	38,000
売掛金回収不能額	50,000
貸倒損失で処理します	12,000

回収不能の金額が貸倒引当金の金額の範囲を超えたので、  
貸倒引当金を取り崩すとともに、その不足分を貸倒損失(費用)で処理します。

仕訳

借 方		貸 方			
貸倒引当金	資産の増加	38,000	売掛金	資産の減少	50,000
貸倒損失	費用の発生	12,000			

## 仕訳問題 160

車両運搬具 ¥400,000を購入し、代金は小切手を振出して支払った。

160

車両運搬具 ¥400,000を購入し、代金は小切手を振出して支払った。

当店振出の小切手は当座預金(資産)勘定で処理し、貸方(右側)に記入します。

仕訳

借 方			貸 方		
車両運搬具	資産の増加	400,000	当座預金	資産の減少	400,000

## 仕訳問題 504

春岡商店は、車両運搬具を¥1,050,000で売却し、代金は後日受取ることにした。なお、車両運搬具の取得原価は¥2,800,000、前期末までの減価償却の累計額¥1,580,000、当期首から売却までの減価償却費は¥115,000である。また、**直接法**で記帳している。

春岡商店は、車両運搬具を¥1,050,000で売却し、代金は後日受取ることにした。なお、車両運搬具の取得原価は¥2,800,000、前期末までの減価償却の累計額¥1,580,000、当期首から売却までの減価償却費は¥115,000である。また、**直接法**で記帳している。

<b>直接法</b>	<b>減価償却費を直接固定資産から減算していく仕訳方法 減価償却費 / 固定資産の勘定科目</b>
------------	---

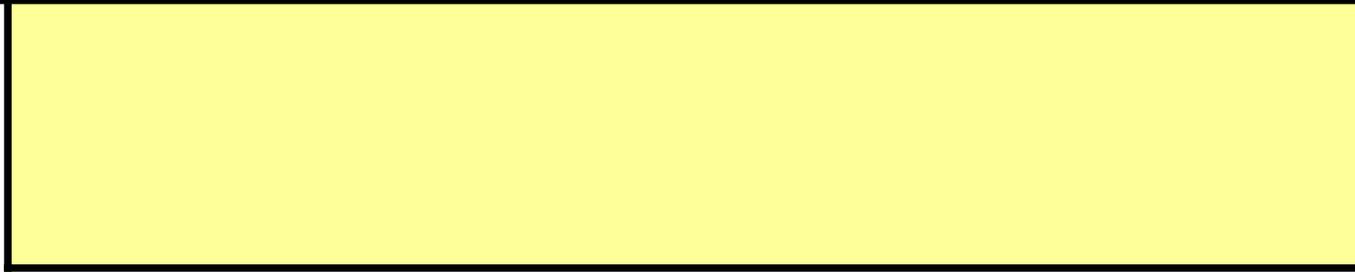
車両運搬具 取得原価	2,800,000	←	車両運搬具(資産)で処理します。
減価償却累計額	1,580,000		
帳簿価額	1,220,000		
帳簿価額	1,220,000		
減価償却費	115,000	←	期首から売却時点までの減価償却費
	1,105,000		
車両運搬具 売却額	1,050,000	←	未収金(資産)で処理します。
売却時の原価	1,105,000		
差額	-55,000	←	固定資産売却益(収益)で処理します。

仕訳

借 方			貸 方		
減価償却費	費用の発生	115,000	車両運搬具	資産の減少	1,220,000
未収金	資産の増加	1,050,000			
固定資産売却損	費用の発生	55,000			

## 仕訳問題 285

磯子株式会社の株式100株を売買目的で1株 ¥55,000で購入し、代金は現金で支払った。



磯子株式会社の株式100株を売買目的で1株 ¥55,000で購入し、代金は現金で支払った。

売買目的 有価証券	売買目的で購入した、株券、社債、国債、地方債、公債等を言います。
	売却した時は、取得原価と売価との差額を、
	有価証券売却益(収益)、有価証券売却損(費用)で処理します。
	期末に、時価法を適用し、時価と取得原価との差額を
	有価証券評価益(収益)、有価証券評価損(費用)で処理します。
	売買目的有価証券の取得価額には随費用(購入手数料等)も含めます。

株数	100
1株あたりの単価	55,000
売買目的有価証券取得価額	5,500,000

¥5,500,000の株式を現金で購入した仕訳を起こします。

仕訳

借 方			貸 方		
売買目的有価証券	資産の増加	5,500,000	現金	資産の減少	5,500,000

## 仕訳問題 432

本郷商店の期首商品棚卸高は¥6,000、期末商品棚卸高は¥8,000であった。  
。売上原価を仕入勘定にて算定するための決算整理仕訳を行いなさい。

432

本郷商店の期首商品棚卸高は¥6,000、期末商品棚卸高は¥8,000であった。売上原価を仕入勘定にて算定するための決算整理仕訳を行いなさい。

仕入勘定を使用して売上原価を算定するための決算仕訳

期首の繰越商品棚卸高を使用して、

借方		貸方	
仕入	6,000	繰越商品	6,000

期末の繰越商品棚卸高を使用して、

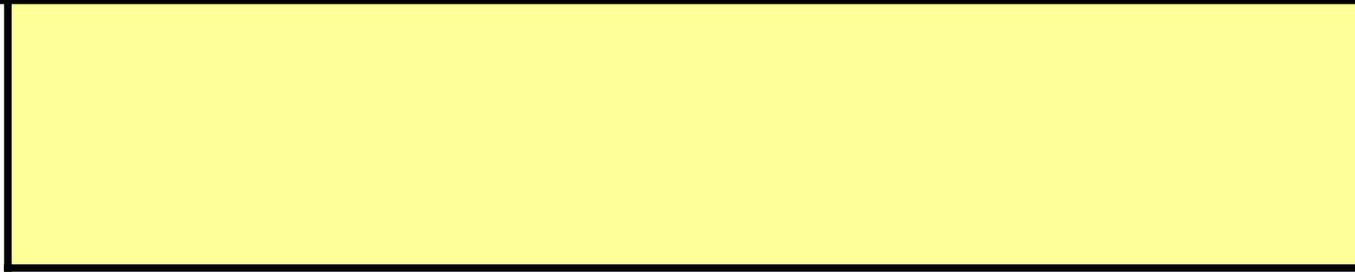
借方		貸方	
繰越商品	8,000	仕入	8,000

仕訳

借方			貸方		
仕入	費用の発生	6,000	繰越商品	資産の減少	6,000
繰越商品	資産の増加	8,000	仕入	費用の取消	8,000

## 仕訳問題 605

末吉商店の当期純利益は¥30,000であった。資本金勘定へ振替えるための仕訳を行いなさい。



605

末吉商店の当期純利益は¥30,000であった。資本金勘定へ振替えるための仕訳を行いなさい。

損益振替手続き

収益・費用の科目を損益勘定に振り替えて、純損益を計算する手続き  
損益振替をし、その差額を資本金に振り替えます。

仕訳

借 方			貸 方		
損益	経過勘定	30,000	資本金	純資産の増加	30,000

## 仕訳問題 525

前期末において見越し計上した給料¥5,000の再振替仕訳を行った。

前期末において見越し計上した給料¥5,000の再振替仕訳を行った。

「再振替仕訳」は、前期末の決算時におこなわれた経過勘定項目（前払費用、未払費用、前受収益、未収収益）に対する翌期首における逆仕訳です。

収益の見越し  
 収益の繰延  
 費用の見越し  
 費用の繰越

を行った仕訳の逆仕訳を起こすことになります。

仕訳

借 方		貸 方	
未払給料	負債の減少	給料	費用の取消
	5,000		5,000